

村上春樹著「走ることに語るときに僕の語ること」文藝春秋社 2007年10月15日刊を読む

走ることに語るときに僕の語ること

1．自分の感じていること、考えていることを頭からそのまま素直に、僕なりの文章にしてみよう。
とにかくそこから始めるしかあるまい。と思いたち……

2．僕の「今の気持ち」をそのまま書き記した。走ることに正直に書くことは、僕という人間について(ある程度)正直に書くことでもあった。途中からそれに気がついた。

- 前書き P4 -

世界中の路上で

3．このように走ることを通じて、いろいろな人と知りあえたのも僕にとって何よりの喜びのひとつである。

4．また、多くの人々が僕を助けてくれたり、励ましてくれた。

5．もし、あなた方がいなかったら、僕もたぶんこんなに走り続けられなかったはずだ。

- 後書き P240 -

[コメント]

村上春樹氏の走ることに語るときに僕の語ることについて、また、走ることに語るときに僕の語ることについて、余りにも率直な文章。それらの心情がよく理解できる。

- 2010年7月2日 林明夫記 -